～林原賞～

遠藤　芳克

略　　歴

昭和48年８月９日生
平成10年３月　岡山大学医学部卒業
平成10年５月　岡山大学医学部附属病院　医員（研修医）
平成10年７月　楠本病院　医師
平成12年４月　岡山大学医学部外科学第一講座　研究生
平成12年11月　国立福山病院　医師
平成14年４月　岡山大学大学院医歯学総合研究科入学
平成14年12月　大井田病院　医師
平成17年11月　姫路赤十字病院　医師
現在に至る

研究論文内容要旨

樹状細胞は生体内で最も強力な抗原提示細胞であり、死滅していく細胞から抗原を捕捉すると同時にdanger signalを受け取ると、免疫系細胞間の直接的な作用やサイトカイン産生を介して抗腫瘍免疫応答を惹起するが、どのような細胞死の形態（apoptosisやnecrosisなど）が最も効果的に腫瘍免疫系を刺激しうるかについては不明な点も多い。テロメラーゼ特異的制限増殖型アデノウイルス（Telomelysin, OBP301）は、ヒト腫瘍細胞内でのみ増殖し殺細胞効果を示す。OBP301が腫瘍細胞に感染すると、内因性のdanger signalとして産生されたuric acidが樹状細胞を刺激してIFN-γやIL-12などのTh1 typeサイトカインを分泌させる。樹状細胞から分泌されたIFN-γは、腫瘍細胞内のPA-28発現を増強させ、CTLによる免疫応答を活性化させる。

今回の研究でOBP301は直接的な殺細胞効果を示すのみでなく、腫瘍免疫系を刺激して特異的な免疫応答を誘導し、間接的な抗腫瘍効果をも併せ持つ可能性が示唆された。